

グラスリッツェン絵画展

増子さん 独特の世界

～ 製鉄記念室蘭病院、来月17日まで ～

絵画作品に進化した。

増子さんは15年前に伊達市の浜田春華さんの作品を見て弟子入り。5年ほど学んだ後、独力で創作活動をしている。グラスから始まり、板ガラスを使った絵画に挑戦。この中で、鮮やかな色彩を再現するためにパステルなどさまざまな素材を生かした作品づくりを続けている。作品展はこれまで2年前の洞爺湖美術館を皮切りに、札幌、余市などで開催している。

今回は絵画やグラス作品約20点を展覧。絵画「2人のピエロ」は、ピンクや黄などカラフルに描いたピエロがまるでダンスをしているようだ。源氏物語を題材にした「すゝつむ花」、ボタン一輪を大胆に描いた「艶やかな牡丹」など独特で不思議な増子さんの世界が表現されている。

グラス作品もシクラメンや山ブドウを描いた花瓶や

野の花をかわいく描いたワイングラスやウイスキーグラスなど「飲んでも楽しいグラス」ぞろい。かわいい掛け軸も。

増子さんは「相手はガラス。制作には神経を集中させます。ですから完成までに時間がかかります」と苦労の一端を語り「どうぞ見て楽しんで」と来場を呼びかけている。(後藤英友)

ダイヤモンドペンでガラスに模様を描くグラスリッツェンに取り組む室蘭市柏木町の増子美恵子さん(70)の市内で初めての作品展が知利別町の製鉄記念室蘭病院・せいてつギャラリーで開かれている。きめ細かな模様にはパステルを配した絵画はより立体的に見え、独特の雰囲気のある作品ぞろいだ。2月17日まで。

グラスリッツェンは16世紀にヨーロッパで始まった手彫りのガラス工芸技法。ワイングラスに模様を描き始めたのが最初。その後、

増子さん独特の作品が並ぶグラスリッツェン絵画展

